

◆1980年12月

「中国人民对外友好協会黒龍江省分会」代表団を招聘
新潟県農業協同組合中央会と哈爾濱市新発人民公社が友好関係締結。

◆1981年 7月

「黒龍江省雑技芸術友好訪日団」を招聘
新潟県内16会場で計32回公演。総入場者数は34,000人にのぼった。



エンディングテーマは“中日友好萬古長青”

◆1981年10月

「黒龍江省大学教育考察団」を招聘
黒龍江大学と新潟大学との友好関係締結の希望を表明。

◆1982年10月

国交正常化10周年を記念し、「新潟県民友好の翼」訪中団を派遣
新潟県獣医師会と黒龍江省畜牧獣医学会が友好関係締結。



雑技団の団員と再会

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1983年 3月

「黒龍江省社会科学院訪日団」を招聘

新潟県知事と黒龍江省省長の相互訪問が合意される。

新潟大学で講演する李剣白団長（右）



◆1983年 8月

新潟県と黒龍江省が友好県省提携



君健男新潟県知事と会談する陳雷黒龍江省省長（前列・左二）

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆1983年 8月

陳雷黒龍江省省長、新潟大学訪問

新潟大学と黒龍江大学は、同年9月に友好協定締結。

猪初男学長に自書を贈る陳雷省長



◆1985年12月

「日本海圏経済研究会」の創立に参画

後年、その活動はERINAに引き継がれた。



◆1986年 3月

「黒龍江省テレビ台代表団」を招聘

テレビ新潟放送網と黒龍江テレビ台が友好協定締結。

特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会

◆1987年 1月

“梅山豚”・“東北民豚”を受け入れ

黒龍江省より上記種豚を受け入れ、新潟県畜産試験場にて繁殖試験を実施。

◆1987年 2月

「黒龍江省航空路問題代表団」を招聘

“新潟～ハバロフスク経由～哈爾濱”チャーター便運航の可能性について協議。

後年(1989年9月)、“哈爾濱～ハバロフスク”定期航空路が開設される。

金子清新潟県副知事と会談する王承志
黒龍江省人民政府副秘書長(左列左二)



◆1987年 5月

「黒龍江省農業機械技術訪日考察団」を招聘

試験研究用田植え機を寄贈。

新潟クボタが三台寄贈



◆1987年 7月

黒龍江省で“5.6大興安嶺火災”が発生

104万haが焼失し5万人が被災したことを受け、77万余円の見舞金を黒龍江省人民政府に寄託した。



◆1987年 9月

「新潟日報社代表団」を派遣

新潟日報社と黒龍江日報社が記者交換等友好協定を締結。

◆1988年 3月

「黒龍江省集装箱輸送視察団」を招聘

“綏芬河～グロデコボ”コンテナルートの開設について協議。

◆1988年 8月

友好県省提携5周年を記念し、省政府代表団来県



陳雲林黒龍江省人民政府副省長（右一）

特定非営利活動法人

1979 Established 新潟県日中友好協会

◆1988年 9月

『日本海シンポジウム』開催

黒龍江省及び哈爾濱市、ハバロフスク地方及びハバロフスク市より代表を招聘し、新潟初の日・中・ロ国際会議を開催。

“日本海圏交流”の概念を提示。後の“環日本海経済圏構想”の端緒となる。



◆1988年10月

「新潟県日中友好協会三江平原開発調査団」を派遣
三江平原の外資導入開発計画に係わり、現地調査。

◆1989年 9月

「哈爾濱～ハバロフスク航空路開設慶祝団」を派遣
“哈爾濱～ハバロフスク”定期航空路が開設される。

◆1990年 9月

「新潟県対外科学技術交流協会代表団」を派遣
新潟県対外科学技術交流協会と黒龍江省対外科学技術交流センターが友好交流協定締結。

◆1990年10月

「黒龍江省農業代表団」を招聘
“三江平原合作開発検討会”を開催。

◆1991年 7月

「三江平原農業総合開発視察団」を派遣

“三江平原龍頭橋ダム及び灌漑プロジェクト”を円借款対象案件とすることに係わり、黒龍江省政府並びに国務院関係部門と協議。



特定非営利活動法人

1979 Established

新潟県日中友好協会